

**竹本** おっしゃるとおりですね。私も加西で少年、青春時代を過ごして、一番大きなポイントは、豊かな自然ですね。田園の風景は、他に代えがたい、ものすごく豊かなものを提供してくれる。そういうところで過ごすことの素晴らしさを普段気がつかなくなりますが、それも大きな資産だと思います。若い人には、加西市で生まれ育ち、生活するというところに是非誇りを持ってもらって、その中で自分自身を発見して、それぞれの持ち味を大いに発揮してもらったらいいと思います。

**市長** 加西は市全体が博物館あるいは学習フィールドだと思います。学校で学ぶ理科や社会科や生物なども、実際に小さいころから自然の中で遊んだ原体験があれば、教科書を読んで、あれだとすぐわかるんです。この理論と実践が、加西ではやりやすい環境にあるわけです。同じことを教えられても、すぐ身に付く、そういう学習環境や風土が加西にはあり、伸ばしていきたいと思っています。

私は市長就任直後に、環境と景観のまちづくりの重要性を訴え、加西は、一昨年12月に近畿自治体第一号のバイオマスタウン構想を策定し、国の採択をいただきました。現在、バイオディーゼル燃料などの製造をはじめとする新たな取り組みをしようとしています。加西市のバイオマス事業について、何かアドバイスいただけませんか。

**竹本** 非常に斬新なアイデアで、しかも近畿で第一号というのが大事ですね。加西市の地の利を大いに生かしているし、タイミングもいいですね。まさに近畿の第一号ということですから、この事業の全国展開のモデルとして、いろんな可能性と発展性があると思います。私は以前、廃棄物担当の課長もやったことがあり、その時に農水省と一緒に、効率のよいバイオエネルギーの活用を図るべく「バイオマスニッポン」という政府全体の計画策定に参画した経験からしても、今後いろんな取り組みができると思います。特に加西市が目指してほしいのは、先進的中堅都市です。大都市が取り組む産業系のバイオもあります。家畜とか農業系とかをフル活用できる、いいポジションに加西市はあります。それをできるだけ積極的に展開してほしいです。後は仲間ですね、兵庫県にとどまらず、全国各地の都市や中央の政府機関を通じて、一生懸命やっている人たちと連携して、兵庫県に加西市あり、日本に加西市ありと、世界に売り込んで、名実共に「モデル都市：加西」になってもらいたいと思います。



**市長** 私は今、世界銀行のレポートを勉強しています。排出権取引、これはまだ日本では準備が遅れていると思います。今度2008年に日本でサミットがありますね。

**竹本** 2008年は非常に重要な年で、G8のサミットの議長を日本が務めます。それから京都議定書の第一約束期間が2008年からです。2004年アメリカでG8サミット（シーアイランドサミット）があり、循環型社会形成を世界的に展開するべく3R（リデュース、リユース、リサイクル）の提案を日本が行いました。日本提案の直後の担当官として総理随行団の一員としてサミットに参画しましたが、今後はその実施に向けて日本が世界をリードしていくことが重要です。

今まで環境というと、たとえば大気汚染対策など、公害防止という観点からでしたが、今後は、金融ビジネスなどの面でも環境をテーマとしてどう生かしていくかです。たとえば今回の予算編成でも金融、保険分野が環境にどうやって投資し、またリスクを管理していけるかという考えが反映されています。広い意味の環境創造、まさに経済と環境という両面からアプローチしていく時代になってきています。

**市長** 環境を大事にしようという意識とともに、社会のニーズや時代の要請に対してビジネスモデルを描ける発想が大事なんです。近い将来、世界的マーケットになる排出権取引というビジネスは、金融や証券の技術・ノウハウがベースに必要です。それを私の今までの人脈も生かして加西で構築したいと思っています。

もっと民間が官に積極的に働きかけて、動かないとだめです。役所の中でストラクチャーを組み立てるだけではなくて、民間として、こんなアイデアがあるというのをどんどん国や県に対して提案していく必要があると思っています。